夕刊 磐城新聞
十月十四日發行
定價 一ヶ月金六十五錢（郵稅拾五錢）
發行所 磐城新聞社
日曜祭日翌日休刊

千葉亀雄先生の憶ひ出

赤井嶽男

三

菊地寛はまた次の様な事を云つて居る

――千葉さんは、新聞記者としても、斯界における相當の功勞者であらうが、われ〱として感謝していゝ事は、千葉さんが日本の文壇に對する隱れたる功勞者だらうと思ふ。恐らく、千葉さんぐらゐ生涯を通じて文學を愛した人なく、千葉さんぐらゐ文壇に關心を持つてゐた人はないと思ふ。殊に千葉さんは、文學に於ける新知識のあくなき追求者であつた

あらゆる雜誌を讀み、あらゆる文學的新刊書を漁ること、恐らく倉色よりも甚しかつたのである。今度の死床の枕元にさへ、新刊の英書の積まれたのを見て、私は微笑を禁じ得なかつた

次も菊地寛の千葉亀雄先生觀

――文學的にも、海外の新思潮、新作家の研究などには、隨分功績があつたと思はれるが、仕事が散發的なので、その割には報はれなかつたのは、殘念である。著書も、甚だ少く『いざさらば』といふ青年時代の小説と『日本仇討全集』と最近の隨筆集『ペン從横』があるだけである『日本仇討全集』は、千葉さんらしく丹念に調査したいゝ本で、僕も仇討など書く時、隨分利用したから、世の大衆作家に取つても、種本の一つになつてゐるに違ひない

僕の知つてゐる限りでは千葉さんなどは、師表とすべき君子人の一人で、僕は社會に出た初、この人の下に働いたことは、幸福な事であつたと今でも思つてゐる。

――直木が、過激な創作から腦膜炎を起したとすれば千葉さんは過激な讀書から腦膜炎を起したのかも知れず、直木が討死とすれば、千葉さんも文人らしい悲壯な討死である

先生は明治十一年九月、羽後酒田の生れ。仙台第一中學校、國民英學會、早稻田大學等を經て東京外國語學校に學び、嘗て日本、國民新聞、時事新報、讀賣新聞等に記者、東京日々新聞學藝部顧問たり『日本仇討物語』『惱みの現代藝術』『歐洲文藝十二講』等の著がある

長男靜一君は、父の遺業を繼いで英文學をやつた帝大出の文學士で今春秋社にゐる。仕事の方は、父に似て熱心で眞面目だが、生活樣式は千葉さんと反對に、好個のモダン・ボーイである（完）

常陸二つ島

島田忠夫

○夏のあひだ間貸しますと札いだす家軒ひくく麥干しならぶ

○くらき霧海より上る庭にまはり麥藏ひゐる媼と話す

○貸間する離室は崖の上にたつ緣に干したる若芽かじめぐさ

○霧立てる二つ島ちかぢかと前にありてここに見る景色いたく變れり

○肌ぬぎて麥しまひ居しをとめ來て戶をあけ吳れぬ乳房ゆりつつ

○かび臭き室（へや）を緣より見たりしが再びは見ず荒磯に向きて

○はまなすの垣に茂りて花おほき讃めつつわれはバス呼びとむ

應募規定

平音頭「七夕祭」歌詞再募集

□歌詞 鄕土小唄としてローカルカラーの豐かなるもの
□用紙 四百字詰半紙判原稿用紙
□篇數 一人一篇限りとす
□姓名 住所姓名、或は筆名、は封書のみに自署し原稿には絕對に附記せざること
□宛名 平町田町一六磐城新聞社「七夕祭」歌詞募集係
□締切 十月末日
□發表 十一月下旬

賞金貳拾圓（入選一篇）
賞金拾圓（佳作五選）

選者（イロハ順）
新妻久滿夫
小山田滋
渡邊何鳴
高久晩霞
白木英尾

版權其他一切は本社所有となす。

潮聲硯靜抄帳

雜詠 例會席上再選

物見ヶ岡稻荷祭

池の面にこぼるゝ萩のおひたゝし 雲水

送電の鐵塔光る良夜かな 長貴

澄み初つた月の今宵の山遠し

秋晴や日輪大をなごりゐる 鷹子

秋晴に思はぬ日燒したりけり

香水のうすらく頃や扇置く

水害二句

水害の水ひき際や飛ぶ蜻蛉

橋落ちて虛ろな河やひたぶ蜻蛉

蜻蜓（其一）

珠雲 小野務平

緋衣羅翠品殊優
高下翔飛儘自由
神武嗟稱豈偶爾
萬邦無比蜻蜓洲

10月15日

△鎌足藤原の姓を賜り大織冠を授けらる（天智帝八）△坂本龍馬刺さる（慶應三）△帝展第一回開く（大正八）△室直與翁謝恩磐城劍道大會（昭和八）

その日〱

○伊エ戰爭の號外のベルのけたゝましさも、この頃は大して驚かなくなつた

小說 誰が殺したか (147)

水谷準作 龍造寺蔣畫

第三の殺人（三十）

『寢みましたか？山野さん！』

『どうぞ御這り下さい』中から少々慌てた樣な道代の聲

『いや、實は橫になりながら本でも讀まうと思つてゐたが生憎一冊も新しいのがなくて、拜借に伺つた次第ですよ、何か雜誌があつたら、貸して頂けませんか』

『どうぞ、そこに澤山積んであります』

『ほう、あなたは大分讀書家ですな。こんな難しいものは私に分りませんが』

と壁に寄かけて堆高く積んである評論雜誌を一々手にとつて、物珍しさうに森田は見入るのであつた。道代にとつてはそれが少からず迷惑さうに見える

併し當の森田はさういふ事には無神經なのか、悠々と衣嚢から煙草を取出した

『山野さん、變なことをお訪ねするやうですが、あなたはまさか獨身主義といふわけでは御座いますまいね！』

『そんなこと……』

道代はうつむいて唇を嚙んだ、彼女には何故森田が突然こんな事をきき出したのか、その眞意が捉めないやうであつた

『私はかう見えても、まだやつと三十三ですよ。いつも四十位だと云はれてゐるんですが』

森田はにや〱笑ひだした

『三十三にして、まだ一度も結婚したことがないのです。私にも理想がありましてね、氣に入つた女性といふものが見つからないですな。併し、やつと一人最近發見しましたよそれは誰だと思ひますか？それは、あなたなんですよ』

『え？』

道代が一歩退ると、森田は身體を起して一歩踏み出すのと同時であつた。だが道代の後は壁だ、眼を大きく瞠つて、ぢつと森田が寄つて來るのを見据た彼女の表情は憎惡と嘲りとで歪んだ。森田はその唐突な不躾味な戀の打明方と同じ不恰好に兩腕をだらりと下て引つけられるやうに道代の前へ歩み寄つて行つた

『山野さん』

と聲が震へる。全くそれは、その昔流行つた新派劇の濡場でも見るやうに鼻持ならぬ聲色と仕草だつた

森田の手が道代の縮めてゐる手首に觸れたと思ふ一瞬であつた

『馬鹿！』

どちらが叫んだか分らない。たゞ、うッと低い呻きとともに五寸ばかり飛上つて、それから棒倒しにどさりと床に倒れたのは他ならぬ森田である。彼は二三度のた打つて、それきり動かなくなつてしまつた。道代は暫く無言のまゝで森田を見下してゐたが、急にほーッと深い溜息を漏すと大股で扉に近寄り誰も今の騒ぎに氣のついたものが無いのを見すまし、そッと部屋を出た

カチリ 鍵の音

ものゝ三十秒も經つてからか、倒れてゐた森田がむつくり起きあがつた。彼は胃の腑のあたりをさすり眉をしかめて苦しさうな息を吐いて部屋の中を眺めてゐたが誰もゐぬのを見てよろ〱と立上つた

『しまつた、逃がした！』

どーんとぶつかるやうにして扉を開けようとしたけれど、外側から鍵がかけてある

『しまつた、逃がした！』

又も同じ叫びが彼の口から洩れた。これが發聲映畫ででもあつたら讀者は今の聲音と先刻の森田のそれとが、全く違つてゐることを發見したことであらう。そして今の聲こそ一度何處かで聞いたことがある筈だ

それもその筈、よく見れば森田の顏こそは名探偵赤城の變裝したものではなかつたか

吉田眼科病院
平町紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

安齊外科醫院
内臓外科
外科一般
花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四七五番）

前田醫院

廣告
新田町 榮ちゃん
天下一品不味い おでん愈々始めました 是非御贔屓を御願ひ致します
榮ちゃん獨特の料理

洋裁講習會
一、講師 東京洋裁教育部專任講師（東京）近藤照子女史
一、會場 平陽女學校
一、會期 十六、十七、十八、三日間 午前九時ヨリ午後三時迄
一、講習用具 ハトロン紙＝ハサミ メートル尺＝ノート
○洋裁の研究こそ現代女性の急務
○好季逸する勿れ 無料公開奉仕
○入會隨意＝會費無料
主催 東京シンガー教育本部 平町女子青年團
後援 平陽女學校 シンガー洋裁女學院

福祿ストーブ福引 景品付大賣出し
◇景品總額五萬圓◇
期間 昭和十年九月廿五日ヨリ同 十二月二十日マデ
賣出規定…ストーブ御買上ノ方ニ左ノ割合ニテ進呈致シマス。
福引券…
フクロクストーブ一號 大衆（中型）寶（大、小） 各一本ニ付一枚
フクロクストーブ二號 大衆（大型） 各一本ニ付二枚
フクロクストーブ三號 各一本ニ付三枚
フクロクストーブ四號 各一本ニ付四枚
抽籤發表 昭和十一年二月十一日東京朝日新聞ニ發表致シマス。
景品引換 昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日迄福引券引換ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス。
景品 福引券一千枚ヲ以テ一組トシ當選ノ方ヘ左ノ景品ヲ差上グ
一等 百圓 一本
二等 參拾圓 二本
三等 拾圓 三本
四等 五圓 四本
等外 特製福祿便箋（空籤ナシ）
福祿ストーブ販賣代理店
平町五丁目 久 釜屋商店
平驛前 ツ 阿部石炭商店

開院
五十嵐產科婦人科醫院
平町新川町一二
醫學博士 五十嵐雄二
電話三七〇番
（入院應需）

夜間診療
胃腸 性病
内科 胃腸病科
花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電話一〇七一番）
（見習看護婦募集）

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
山内醫院
醫學士 山内亨吉
病室完備 自炊ノ便アリ

松茸そば
松茸丼 始めました。
どうぞ御試食下さい。

江戶前
海老天麩羅
天ぷら雁
天丼
親子丼
平町田町
酒喜家
電話一五一番

流行ノ下駄ト草履ハ！
ドコヨリ安イ
南町 三井ハキモノ店
（小僧さん入用）
電話一八一番

洋服は信用堂へ
合着及び冬服は當店獨得のスタイルにて各種取揃へました。是非御一覧下さい。

黑小倉小學服	¥0.90ヨリ	小學水兵服	¥1.60ヨリ
黑小倉中學用	¥2.90ヨリ	ベビー服	¥2.20ヨリ
サージ立衿上下	¥7.00ヨリ	男兒幼年服	¥2.00ヨリ
背廣三ッ揃	¥13.00	文化コート	¥0.80ヨリ
レンコート	6.00	スカート チャンバー	各種

外に各種作業服ズボン
平町三丁目 電話六一三
信用堂洋服店

漆器と家具の御用命は
和 和久井屋漆器店へ
御越し下さい。
平町一丁目 電話四〇五番
御祝御引物品種々取揃御待申して居ります。

月曜論壇

町の豫算に就て

『豫算とは財政經驗、換言すれば前年度のバランスに基いてなされた其年の蓋然的な收支の見積りに外ならぬ』（マルクス）とは言へ、それは政治的意義に於ては議會――即ち國民代表に對する承諾要求書でありその協贊を經た後は協贊の主旨を內容とする法律的意義を有する行政上の命令書である。而して之の定義は二十二億を超す尨大な國の歲計にも僅々三十五萬に滿たぬ蕞爾たる平町豫算の上にも其間大小輕重の差こそあれ何れも均しく一年間に於ける豫定生活表たる點に於て變りがない以上直に移して以て之に當て嵌める事が出來る譯である、斯くして旋て三萬町民の意志として而に執行權的意志となる平町十一年度豫算は昨今着々として各方面から編成の資料が檢索蒐集されつゝあつて其間苟も過誤遺漏無かるべきは、町當局が永年に亘つて培はれた所謂財政經驗、全幅の信頼を拂ふものであるが由來私經濟と反對に出づるを量つて入るを制す公財政の性質上、豫算の編成技術にして籌畫その宜しきを愆るに於てはさらでだに常住內外支出の增大に喘ぎつゝある中下層擔稅者に對して時に必要以上の增徵を敢てする無きやも未だ以て知るべからざるものあるので新規事業の計劃その他之れが調査檢覈に當つては極めて細心周到の注意を以て之に臨まれん事を望むものである。玆に些か筆者の衒學的言辭を許容さるるならば彼のロッツが定式化した豫算技術上の原則は　一、豫算は公開的でなければならぬ二、豫算は全部的で且統一的でなければならぬ　三、使途が明確でなければならぬ　四、收入は正確に適合せねばならぬ――の四つで而も豫算に對する町理事者乃至町民の關心は今後逐年數字の增大を加ふる意味に於ても一層その正鵠を必要とするものあり、愿うした機會に敢て識者の清鑒に愬へ度いと思ふ所以である

健康の秋たけなわ
安島、關口の昭和人絹軍 地方庭球の覇を制す
全日本大會出場權獲得

平町魁文堂運動具店主催平俱樂部及本社後援の大日本庭球協會支部選手權大會は好晴の昨十三日午前十時から磐中ABコートに於て開催したが參加二十四組、堀魁文堂主の挨拶に次いで直に試合に入り大接戰の上四對二で昭和人絹快勝、來月二十三日行はれる明治神宮の全日本大會に出場權を獲得した

第一回戰

平（小川木田）4―2 古河（石井田中）
平商（篠原佐藤）4―2 入山（長谷川岩倉）
入山（立花松井）4―0 發電（高田蛭田）
古河（安齋入石）5―3 平商（岩佐本田）
古河（大野野村）4―1 平商（田口松本）
磐中（大谷宮川）4―0 古河（添田伊藤）
磐中（薬谷鈴木）4―1 古河（相川佐藤）
磐炭（諏訪淺川）4―2 古河（小林矢內）
磐中（水野篠原）4―2 入山（三村若松）
局（高久吉田）4―0 古河（阿部八木沼）
人絹（安島關口）4―2 古河（小森山杉本）

第二回戰

入山（立花櫻井）4―0 磐中（薬谷鈴木）
人絹（安島關口）4―0 磐中（水野篠原）
古河（安齋大石）4―2 局（高久吉田）
平（小川木田）5―3 磐中（宮川大谷）
平商（篠原佐藤）4―2 發電（諏訪淺川）
古河（大內野村）4―1 平商（鈴木小川）

第三回戰

古河（安齋大石）4―0 古河（大內野村）
平（小川木田）6―4 平商（篠原佐藤）
入山（立花櫻井）―― 不戰
人絹（安島關口）―― 不戰

準決勝

人絹（安島關口）6―4 平（小川木田）
古河（安齋大石）4―1 入山（立花櫻井）

決勝

人絹（安島關口）4―2 古河（安齋大石）

縣下兒童繼走に 第一校堂々優勝
昨夜福島から歸る

縣男子師範校陸上運動會は昨十三日午前七時半から同校庭に開催、呼物の縣下小學兒童繼走に出場した平第一校チーム（尋常科）は參加十チームを蹴破つて堂々一分二十七秒四（從來の記錄は二本松第二校の一分二十八秒四）の新記錄を獲得して優勝、榮ある優勝旗を携へ昨夜揚土台に歸校した

磐中 24――4 磐女

自信ある攻守に 八強豪の爭霸戰
磐陽野球組合せ決る

地方球界の掉尾を飾る磐陽野球聯盟主催第九回大會は來月十、十七の兩日磐中グラウンドで擧行する、十二日マルトモホールで主將會議を開き組合せを左の如く決定した、磐炭の再勝成るか、これをめぐつて入山、揚土、高月の三チームも奮起して興味をもたれてゐる

（十日）
A 高月――オール湯本
B 揚土――平鐵
C 磐炭――平俱

（十七日）準決勝 決勝
D 古河――入山
Aの勝者――Bの勝者
Cの同――Dの同

磐中軍捷つ
昨日の敎員野球

常磐毎日新聞社主催平三中等校敎員軟式野球戰は昨十三日午前八時半より平商校庭に開催、左の成績で磐中に凱歌揚る

磐女 20――12 平商
磐中 17――3 平商

敬老會
昨日曜の盛況

平町女子青年團の敬老會は昨十三日午前九時より第二校講堂に開催、同團幹部各戶を訪問自動車に同乘して迎へた老齡は旣報六十三名中四十七名、町內各校一年から四年生までの男女小學兒童による學藝、中島湖洲氏の演藝その他あり記念品に出欠を問はず心籠めた座布團一枚宛贈り同十二時盛況裡に閉會再び自動車で各戶に送られた

。。。。。平町菊花品評會　來月一日より一週間平署會議室に開かれる

浮動性の繭價
高低常なき四倉市場 愈々來廿日閉場

一昨十二日依然高六十四圓七十錢
安六〇圓七十錢　馴六四圓　出廻二五〇貫
の安値を示した閉場近き四倉市場は昨十三日に至つて高値六十六圓二十錢と云ふ一寸尻上りを示して養蠶家を喜ばせた
安五七圓八〇錢　馴六三圓六〇錢　出廻二五〇貫
遲蠶で掃立が延びた關係から閉場日を來る二十日に延期した

實らぬ秋を歎く
今更驚く冷水害の慘狀 郡下の大勢判る

冷水害に祟られた郡內水稻被害町村の救濟對策町村長支會總會は一昨十二日午後平町會議事堂に開かれたこれに先だち各町村で調査した冷害を見ると收穫絕無の永戶組合（九四町五反）川前（九〇町五反）を最惡として收穫皆無十八町五反、三分作七九六町四反、五分作一、三七二町三反、七分作二、二二二町五反で更に水害況も三阪、小名濱、下小川、大野等を筆頭に二、〇二七町步に上つて居り十五日の免租申請等に關し種々協議、更に今十四日縣で開かれた縣下町村支會長會議でこれが具體的對策が講ぜられた

第四校敷地 買收協議會

愈々建設敷地も決定した第四小學校の敷地買收費は來年度に計上されるので町ではこれに先だつて關係地主に對し買收豫約の交渉を開始する事になり十六日午後一時から委員會を開いて協議する、建築費は十二年度豫算に計上される模樣

縣代表十大畫家 寫生旅行
勿來、夏井、新舞子等地方名勝を紹介

年來地方からも希望されて有つた本縣の名勝を廣く天下に紹介する趣旨を以て、本縣代表畫伯ともいふべき在京左記十氏が來春東京に展覽會を開くこととし、來月早々一同揃つて本縣下各地に寫生旅行に來るといふ、今度は其の旅費展覽會等の資金調達の意味に於て右畫伯等の半折（二十五圓）を揮毫配布するとの事、會津地方は既に完了し、靈山（福島）相馬方面も豫定數以上に達したる事とて、もし當地にも豫定の申込數が出來れば、福島、相馬を了へて、當方面の勿來、夏井溪谷、新舞子其他を寫生すべく來平するといふ、單なる畫會と異なり地方の名勝案內ともなる事故に餘裕の有る人には義俠的にも擧つて申込まれたいとの事（申込所、大嶺庫、高久忠、吉田金作、諸橋元三郎）尙ほ本邦畫壇にも名聲高き代表畫伯が一堂に會する空前の此の機會に同好の士集つて懇親會を催し度い希望もある

り旁成るべく早く豫定數に達せしめたいと發起人も急いで居る（石塚省三、坂內青嵐、萩生天泉、太田秋民、渡邊晨畝、渡部浩年、勝田蕉琴、角田磐谷、酒井三良、酒井白澄）

納稅 宣傳 映畫

縣稅務平出張所では納稅思想宣傳のため來月二十日頃から郡內全般に亘り納稅社會美談を盛つた映畫會を開催する事になつた、番組は
諸の花、何處へ行く、眞誠の心、其他
目下の申込みは十ヶ町村であるが今十四日開かれた町村事務指導に際し種々協議し全般に亘るものと觀られてゐる

公休日の酒盛りから 短刀で下腹部を刺す
昨日內鄕で 被害者生命危篤

內鄕村白水壽炭鑛運搬夫紺野久男（二四）は昨十三日午後一時半頃同鑛青木飯場方坑夫原口安信（三六）大島信雄（三五）と會飲中大島と一寸した事から口論となり持つてゐた刄渡三寸餘の短刀で大島の下腹部を突き刺し紅に染つて打ち倒れたのを見て直に平署綴駐在所に自首した、被害者は目下同村高萩病院に入院治療中だが大腸露出して生命危篤

愈々獵天狗の世界
平署に申込み殺到

愈々狩獵の秋！キジ、山鳥等を除く狩獵鳥類は既報の如く明十五日解禁されるので平署の窓口には免許狀申請の申込みが殺到して居る目下の申込みは四十餘名狩獵鳥の發育は過般の惡天候で一寸惡いが獵天狗の腕はうなつて居り明日から解禁される中シギは小名濱方部が最も有望更に來月一日からのキジ、山鳥類は例年の如く三阪、澤渡の山間部だといふ

すわらじ劇
前人氣盛ん

平町愛婦分會が資金造成のため招聘するすわらじ劇團は愈々來る十八、九の兩日聚樂館で開演するので前人氣を呼んでゐる、前賣券は五十錢と七十錢
出演者は何れも本名で出てゐるが藝名を現すと何れも斯界に著名の人々で倉橋仙太郎は澤正と共に新國劇を起した人、井上竹水は市川齊入の高弟の市川新竹、內山虛心は大都映畫の澤田晨之助、山本仁吉は新聲劇の幹部たりし山本元彥等で一行四十餘名の名狂言を以て眞の演劇を觀せるだらうと評判がよい

成田講の酒祟る
歸途立寄り先で 些細な事から人を傷く

上小川村字後原農日西淸長（四〇）は十三日午後二時頃同村上の內野村政吉方で開かれた成田講で村人三十餘名と呑み合ひ同字長谷川久吉方に至つて居合せた大工木田淸三郎（三八）と些細な事から喧嘩となり傍の瀨戶物類をぶつつけて淸三郎の頭部に全治二週間の傷を與へた

滿洲事變 勳功賞賜

平町の左記諸氏は滿洲事變の勳功により賞賜の御沙汰あり近く傳達される
從軍記章賜金佐藤二郎、木田三雄、勳記佐藤亥之

冷害地視察
間部農產課長來郡

農林省農務局間部農產課長は郡內冷害地視察の爲今十四日夕刻縣今井農務課長、古賀、江上兩技師と共に來平、住吉屋本店に一泊の上明十五日澤渡、三阪、永戶の山間部を視察の上茨城方面に向ふと

三阪の區長殺し
愈々團圓に近づく
有力な嫌疑四名を留置

旣報―下三坂區長殺しに大體の目星がついた平署では一昨十二日夜から本署より應援隊を捜査本部に急派して本格的活動に移り同夜反區長派の頭領たる阿部淸（四五）並に最も嫌疑濃厚な佐藤長次郎（三〇）大谷陽（三四）佐藤嘉吉（四三）の四名を自動車で本署に引致し捜査本部では一部隊が今十四日歸署の上本格的取調べを開始する筈である
前記大谷は性質も獰猛で山林問題に關しては反區長派の急先鋒として活躍して居る處から嫌疑が深められ、犯罪は同夜營林署の役人を訪問途中の區長宅を阿部宅に呼び込み二名乃至三名で口を壓し窒息せしめたものとみられてゐる

十五日（小名濱測候所調査）

日出 五、四二　月出後 七、〇一
日沒 五、〇四　月沒前 九、〇二
滿潮 前六、三〇 後五、〇五　干潮 前一〇、三〇 後一一、四五

舊九月十八日
火曜　甲子　友引　滿　翌宿
新十月十五日

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　智慮を包みて外に現はさず定業を守るべし▲二黑　進退かけ引を自由にして果斷なれば諸事叶ふ▲三碧　氣運不良にて百事警戒を要す病厄盜難注意▲四綠　協力して家業に勉め家內の和合を專にせよ▲五黃　商談はかどり難く有利の展開は覺束なかるべし▲六白　自重すれば過ち無きも之に反すればわざわいあり▲七赤　將來を樂みに努力すべし開業普請緣談等吉▲八白　幸運に乘じていうよせず決行すれば諸事成る▲九紫　小成に安んずればすゐ運なれどもとがなく安全

廣告

磐城名物　靈峰羊羹（れいほうようかん）
小川鄕驛前　平屋賣店

現代的―紫山流盤景教授
修得短期　經費低廉
一、材料器具が安く何回でも使はれる。
一、練習二三回の初心者の作品でも直に床の間を飾るに充分である。
一、一週間一回六ヶ月で修業出來る。
一、繪畫の素養全く無き老若男女となたにも習得出來る。
平町白銀町　紫山流盤景師範　高橋光山　電話六三八番

急告
豆タク！豆タク！豆タク！の出現
秋のドライヴに、商用に
迅速　低廉　市內三〇錢　市外地普通料金四割引
鈴木自動車豆タク部　四丁目　電話二一七

諸橋外科醫院
電四六四　平町新川町二七
內臟外科　皮膚科　花柳病科　レントゲン線
醫學博士　諸橋鐵彌
醫學士　奧義弘

小兒科　志賀醫院
（入院應需）
平町南町五〇番地　電話一六二番

創業十二週年紀念大賣出し
期間十月二十六日マデ
素晴らしい……紀念品もれなく進呈
外に五圓以上……一割引
店舖改築（舖裝道路完成）
營業革新……大飛躍の大塚　店內小デパート式
○大塚の靴　スマートな型　驚異的な其値段　堅牢な品質
△月星運動靴、月星ゴム長靴
○大塚の運動具　今や酣の秋のシーズン　野球競技用具各種　本年は特に力を入れて居る
各種服裝類……豊富陳列
靴と運動具の　大塚
平・田町（銀座通り）　電話七十七番